

令和 4 年 2 月 25 日

教 育 長 様

研究コース
グループ研究B
校園コード（代表者校園の市費コード）
522031
選定番号
239

代表者 校 園 名 :	大阪市立桜宮中学校
校 園 長 名 :	向井秀俊
電 話 :	06-6921-6934
事務職員名 :	櫛谷葵
申請者 校 園 名 :	大阪市立南高等
職 名 ・ 名 前 :	主務教諭 佐藤和幸
電 話 :	06-6762-0105

## 令和3年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和3年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	継続研究（2年目）
2	研究テーマ	<b>学校保健活動におけるマネジメントのあり方 ー保健主事による効果的なマネジメントを考えるー</b>			
3	研究目的	○体力の向上や健康の保持増進 ○保健主事のマネジメント力の向上 ○小学校・中学校・高等学校それぞれの校種における保健管理・保健教育の推進・意見交流の場の確保 ○大阪市学校保健主事会の組織の充実 ○今日的課題に取り組む学校保健委員会のあり方（ICTの活用も含む）			
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSコシツク 9.5※ イント） 12月 大阪市学校保健主事会 役員人事の承認と今後の活動予定、近畿学校保健主事研究協議会（和歌山県・紙上開催）の報告、情報交換などを行った。 2月 予定にしていた大阪市学校保健主事会全大会は紙上開催となった。事業・決算報告、事業計画・予算案、全国理事による発表報告などを掲載。「保健主事のための実務ハンドブック」の改訂にあたって全国会報で寄稿された文部科学省初等中等教育局健康教育食育課健康教育調査官の横嶋剛様の文章も掲載することにより、ハンドブックと併せて各校保健主事の一助になるよう配慮した。 11月 近畿学校保健主事研究協議会理事会への参加。 3月 研究集会など集合開催ができなかったため、書籍を購入・各校配布を行った。「学校保健の動向（令和3年度版）」「保健主事のためのマネジメント事例集」「学校健康づくり推進学校の実践 最優秀校」各校種編など精選し各校種に配布することによって、最新情報の共有等に努めた。 小学校・中学校・高等学校、それぞれ紙上開催ながら大会、研修会等、各校種ごとの活動も行った。			
5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
		日程	令和	年	月 日
		場所			
		備考			

6	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<b>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</b>および<b>教員の資質や指導力の向上</b>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p><b>【見込まれる成果１】</b>          学校保健委員会の設置および実施を通して、各学校が抱える今日的課題/問題について学校組織として取り組む。</p> <p>《検証方法》          学校保健委員会の設置率および実施率を９０％以上にする。[定量的評価による]</p> <p>〔検証結果と考察〕          学校保健委員会の設置・実施状況は、設置率９７．３％、実施率８９．２％（小学校の設置率９８．６％実施率９３．８％。中学校、設置率９４．５％実施率７８．９％。高等学校、設置率９５．０％実施率８９．２％。）であり、ほぼどの学校でも校内組織として学校保健委員会が位置づけられ、高い確率で実施されている。</p> <p><b>【見込まれる成果２】</b>          研修会への参加およびその実施を通して、保健主事としての資質やマネジメント力の向上を図る。</p> <p>《検証方法》          参加者アンケートを実施して、「研修会が充実していたか（講義内容・受講形式）」等について肯定的評価を６０％以上にする。[定量的および定性的評価による]</p> <p>〔検証結果と考察〕          大阪市学校保健主事会全大会（紙上開催）の中で、全国学校保健主事会理事を務める宮本幸子による「学校保健における組織活動を要と実感する『学校保健委員会』～長年にわたる保健主事・養護教諭との兼務を通して。コロナ禍で開催できた学校保健委員会～」を掲載し、組織活動としての学校保健委員会の重要性を改めて見直すことができた。          コロナ禍によってアンケートの実施は困難であったが、保健主事としての資質やマネジメント力の向上を図った。</p> <p><b>【見込まれる成果３】</b>          小学校・中学校・高等学校、各校種において取り組みの研究発表がおこなわれ、保健管理・保険教育が推進された成果が披露される。</p> <p>《検証方法》          研究発表の成果、すなわち児童・生徒の変容、教職員・PTA・地域の感想をみることで、保健主事のマネジメント力が発揮されたことを裏付ける。[定量的および定性的評価による]</p> <p>〔検証結果と考察〕          西船場小学校において、感染症対策として手洗いの取り組みを行った。健康委員会児童による月に一度の朝の清潔調べや、年数回の手洗い週間でつめ・ハンカチ調べを実施した。手洗いの習慣が身についている児童の割合は、R2年度は94%のところ、R3年度は97%と非常に高い割合であった。視覚的に訴える取り組みとして、ひとつめは「手の洗い方」を啓発する動画（絵の具や試薬を用いて洗い残しを明らかにする実験、厚生労働省による正しい手の洗い方の紹介）を作成し、全児童が視聴できるようにした。視聴後のアンケート（「手洗いが大切と思うか」）では、「よくわかった」「だいたいわかった」という肯定的評価は、99.4%という結果であり、手洗いの重要性を伝えることができた。ふたつめとして、保健室前に、脱脂綿を詰めたゴム手袋を使って本物のような手を作り、立体的に手洗いの仕方を示した。児童が興味をもってそれを見る姿が見受けられた。以上の取り組みを通して、コロナ禍で手洗いによる感染症予防が浸透していると考えられる。</p>
---	-------	---

6	成果・課題	<p><b>【見込まれる成果4】</b></p> <p>《検証方法》</p> <p>〔検証結果と考察〕</p>
		<p><b>【見込まれる成果5】</b></p> <p>《検証方法》</p> <p>〔検証結果と考察〕</p>
		<p><b>【研究全体を通じた成果と課題】</b> 具体的に記載してください。</p> <p>・成果として、今般の新型コロナウイルス感染症によって、活動自体に多くの制限・困難があったが、その中でも、全体会（紙上開催）や各校での取り組み、各関係団体との懇親を持つことができた。情報交換や最新情報への更新などに努めることができた。</p> <p>・課題としては、今後もコロナ禍での活動を余儀なくされることが想定される。したがって、新しい生活様式のひとつとして、本会の活動形態等を検討していかなければならないと考える。また、学校行事等においても昨年度に引き続き本年度も大きく変更があったと推測できるが、運営の方法について、保健主事の役割が大きいことを改めて認識した。今後も更に保健主事が校内の中間的リードを務めるためには、研修会だけではなく、校内人事を司る校長のビジョンによる後押しも期待したい。</p>
		<p><b>《代表校園長の総評》</b></p> <p>新型コロナウイルスにより予定どおりの実施はできなかったが、その状況下において出来ることを模索して研究に努めた。</p> <p>従前より、心身の健康をはじめ、学校保健についての大切さや必要性が求められている中、学校保健のマネジメントを担う保健主事の役割は大きいと言われている。現在のコロナ禍ではさらに役割が期待される場所である。そのため、管理職の意識向上及び保健主事の職務理解、役割の明確化、そして組織的な推進を旨とし、一層学校保健活動を活性化させる必要がある。</p> <p>来年度もこれまで以上に養護教諭と保健主事が両輪のごとく上手く連携していくよう、全市に働きかけていきたい。</p>